



TITLE:

膀胱子宮瘻の1例

AUTHOR(S):

田中, 一志; 長久, 裕史; 吉村, 光司; 梅津, 敬一; 安野, 博彦

CITATION:

田中, 一志 ...[et al]. 膀胱子宮瘻の1例. 泌尿器科紀要 1996, 42(8): 601-603

ISSUE DATE:

1996-08

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/115783>

RIGHT:

膀胱子宮瘻の1例

国立神戸病院泌尿器科 (医長: 梅津敬一)

田中 一志, 長久 裕史, 吉村 光司, 梅津 敬一

安野泌尿器科医院

安 野 博 彦

VESICOUTERINE FISTULA: A CASE REPORT

Kazushi TANAKA, Hirofumi CHOKYU, Koji YOSHIMURA and Keiichi UMEZU

From the Department of Urology, Kobe National Hospital

Hirohiko YASUNO

From the Yasuno Urological Clinic

A 25-year-old woman suffered a vesicouterine fistula following cesarean section. Cystoscopic fulguration of the fistula was attempted, resulting in disappearance of incontinence. Two months later, incontinence recurred and open surgical repair was performed transabdominally. After resection and closure of the fistula with the help of peritoneal flap interposition, the patient became free from incontinence.

(Acta Urol. Jpn. 42 : 601-603, 1996)

Key words: Vesicouterine fistula, Surgical repair

緒 言

膀胱子宮瘻は他の婦人科的尿瘻と比較しても稀な疾患である。今回、経尿道的瘻孔凝固術を行ったが再発し、経腹的手術により治癒せしめえた本症の1例を経験したので報告する。

症 例

患者: 25歳, 女性

主訴: 肉眼的血尿

家族歴: 特記すべきことなし

既往歴: 1993年帝王切開にて第1子出産

現病歴: 1995年4月21日近医産婦人科で帝王切開で第2子を出産した。同年5月7日より血尿, 軽度の腔性尿失禁を認め、近医泌尿器科を受診した。膀胱鏡にて異常を指摘され5月25日当科入院となった。

初回入院時現症および検査所見: 身長 157 cm, 体重 49 kg, 血圧 112/62 mmHg, 脈拍 76/min. 腹部臍下に手術痕を認めた。血液一般, 生化学では特に異常をみとめなかった。尿所見は肉眼的血尿で、沈渣は RBC++/hpf, WBC++/hpf であった。KUB, IVP 上は異常を認めなかった。膀胱鏡上, 膀胱後壁の一部欠損と縫合糸を認めた。

以上より帝王切開後の膀胱子宮瘻の診断にて経尿道的瘻孔凝固術を行った。

経尿道的手術所見: 膀胱鏡下, まず膀胱後壁の縫合

糸を異物鉗子で摘除した。直径約 1 cm 程度の膀胱後壁粘膜の欠損が確認され周囲の電気凝固を行った。術直後の膀胱造影では腔および子宮への造影剤の流出は認めなかった。

術後3日目尿道カテーテルを抜去し、翌日退院となった。その後肉眼的血尿, 腔性尿失禁は消失していたが、術後11日目再度血尿を認めた。その後肉眼的血尿は自然に消失したが、術後70日目に再度腔性尿失禁を認め同年8月28日再入院となった。

再入院時検査所見: 膀胱鏡上, 膀胱後壁に瘻孔を認めた (Fig. 1)。瘻孔造影にて膀胱と交通する子宮頸管と子宮体部が造影された (Fig. 2)。

以上より95年8月31日経腹の膀胱子宮瘻閉鎖術を施行した。

手術所見: 下腹部正中切開にて腹腔に達した。腹腔内の癒着はほとんど認めなかった。膀胱を切開し瘻孔を確認した。膀胱と子宮の間を剥離し、膀胱および子宮頸部の瘻孔付近の癒着を含む組織を切除した。それぞれを2層に縫合し、膀胱と子宮の間に腹膜を介在させ手術を終えた。

術後経過は順調で、術後11日目に尿道カテーテルを抜去し、95年9月16日退院した。その後現在まで泌尿器科的異常は認めていない。

考 察

膀胱子宮瘻は、本邦では1903年小野¹⁾の報告以来幾

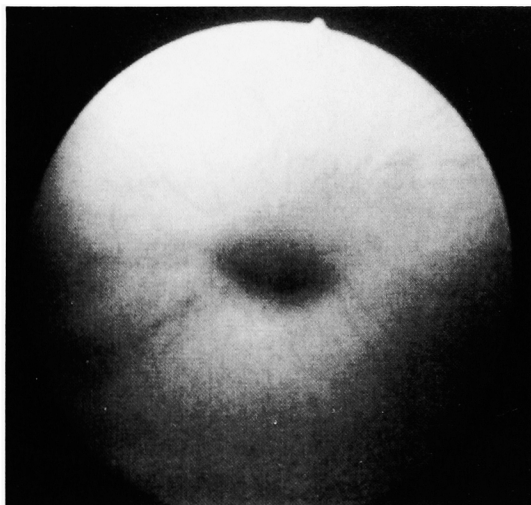


Fig. 1. Cystoscopic view of posterior bladder wall with vesicouterine fistula.



Fig. 2. Radiograph of fistula. Uterus and vagina are also visualized by the contrast medium.

度か集計報告²⁻⁴⁾されており、淡河ら⁵⁾は、57例を集計している。その後高松ら⁶⁾の集計まで63例報告されており、森下⁷⁾、太田ら⁸⁾の報告を加えると自験例は66例目にあたる。

発生原因は、産科的原因が圧倒的に多く、その中でも帝王切開の際に発生したものが半数以上を占めている。自験例も、帝王切開から15日後に症状が出現して

いる点、および膀胱鏡にて膀胱壁の欠損と縫合糸を認めている点から、帝王切開手術時の膀胱と子宮の剥離操作および子宮縫合時に膀胱を損傷し生じたものと推測される。

膀胱子宮瘻の症状は腔性尿失禁が約8割にみられ、その他周期的血尿、膀胱炎症状などがみられる。またその中でも腔性月経を認めず周期的血尿をきたす場合は、Youssef's syndrome として報告されている^{9,10)}。診断は、既往歴、症状から容易であるが、腎盂造影、膀胱造影、膀胱鏡検査、子宮卵管造影、色素検査を行えばより明白となる。

治療は、本邦では記載のあった57例中、55例に手術療法がなされ、その中でも腹式瘻孔閉鎖術が44例と最も多く行われている。瘻孔の再発防止目的で単純閉鎖よりは、腹膜弁挿置や大網挿置が併用され、再発の報告はみられない。一方 Graziotti ら¹¹⁾は、自然治癒例を報告しており、また Molina ら¹²⁾らは、膀胱鏡下での電気凝固術によって治療し、その有用性を報告している。自験例は、初め膀胱鏡下での電気凝固術を行ったが再発し、腹膜弁挿置による腹式瘻孔閉鎖術により治癒しえた。自験例の再発した原因としては、1) 瘻孔が比較的大きく、瘻孔周囲の血流が不良であったこと、2) 電気凝固術後の膀胱造影にて瘻孔が造影されなかったため術後3日目に尿道カテーテルを抜去したこと、の2点が考えられる。以上のことから、本疾患が疑われた場合、まず保存的治療もしくは経尿道的電気凝固術などの比較的侵襲の少ない治療を行い、治癒しえない場合には腹式瘻孔閉鎖術を行うべきであると思われた。

結 語

経尿道的電気凝固術を行ったが再発し、腹式瘻孔閉鎖術によって治癒しえた膀胱子宮瘻を経験したので報告した。

文 献

- 1) 小野安述：泌尿生殖器瘻について。医中誌 1：1240, 1903
- 2) 百瀬剛一、遠藤博志：膀胱子宮頸管瘻について。臨泌 21：243-249, 1967
- 3) 町田豊平、石橋 晃、佐藤英資、ほか：帝王切開後の膀胱子宮頸管瘻の1例。臨泌 22：681-687, 1968
- 4) 坂口 洋、森 義則、栗田 孝：膀胱子宮瘻の2例。泌尿紀要 16：341-348, 1970
- 5) 淡河洋一、山本 洋、平石政治：膀胱子宮頸管瘻の1例。西日泌尿 43：347-351, 1981
- 6) 高松正武、志田原浩二、津島知靖、ほか：膀胱子宮瘻の1例。西日泌尿 54：1774-1776, 1992
- 7) 森下直由：膀胱子宮瘻の1例。西日泌尿 55：1496-1498, 1993

- 8) 太田昌一郎, 高木隆治, 片桐明善: 膀胱子宮瘻の
1 例. 臨泌 **48**: 242-243, 1994
- 9) Youssef AF: "Menouria" following lower segment
cesarean section. A syndrome. Am J Obst
Gynecol **73**: 759-767, 1957
- 10) Miroglu C, Berkol Y and Basak D: Youssef's
syndrome. Br J Urol **61**: 531, 1988
- 11) Graziotti P, Lembo A and Artibani W:
Spontaneous closure of vesicouterine fistula after
cesarean section. J Urol **120**: 372, 1978
- 12) Molina LR, Lynne CM and Politano VA:
Treatment of vesicouterine fistula by fulguration.
J Urol **141**: 1422-1423, 1989

(Received on February 14, 1996)

(Accepted on April 30, 1996)